

人生の再出発 部屋貸し応援

【旭川】旭川市の不動産業「早坂企画」社長の早坂天さん(76)は四半世紀にわたり、ホームレスなどの「住宅弱者」に自社アパートの部屋を安価で貸し出すことで住まい確保を支援している。築数十年の物件を購入して自社で改修。家賃を公的扶助の範囲に抑え、敷金・礼金や保証人は不要で提供している。「家さえあれば人生は再出発できる」と早坂さん。生活に困窮する人に寄り添い、見守り続ける。

(小林史明)

旭川の不動産業・早坂さん



「手直しすればまだまだ住めるな」。厳冬の1月、早坂さんは社員と一緒に買い取ったアパートを訪れ、床などの腐食具合をチェックしていた。木造2階建ての築30年。水回りなどの改修時期を迎えたが、経費面から放置され、近年は入居

困窮者に寄り添い四半世紀

がほとんどない状態だったという。

同社は現在、築30〜50年ほどのアパート約190棟の部屋を賃貸している。家賃は生活保護受給者の住宅扶助上限(単身世帯で2万8千円)ほど。格安の物件を購入し、自社の従業員で修繕することで、コストを抑えているという。現在、約1700世帯が入居する。

早坂さんは、1995年にそれまで勤めていたスパーを辞め、退職金を元手

に旭川市内にアパート3棟を建てて不動産管理の早坂企画を立ち上げた。それからまもなくして市から相談が舞い込んだ。大阪府の男性がホームレスになり、助けを求めている。会社が倒産し自殺しようと思いつめて北海道にやってきたという。所持金はゼロ。男性は「何とか人生をやり直したい」と話した。

早坂さんは十勝管内足寄町の開拓農家で生まれ育った。天井に穴が開き、布団に雪が積もることもある掘っ立て小屋だった。それでも「家はくつろぐことのできる大事な場所だった」。そのことを思い出した早坂さんは男性に部屋を貸すことにした。

早坂企画には、家に帰れない人が助けを求めてくるようになった。「刑期を終

生活困窮者に部屋を貸す早坂天さん。「安心して住める家があれば立ち直れる」と話す(宮永春希撮影)

えて刑務所を出たが、地元には戻れない」「熟年離婚で住む家を失った」「暴力団から足を洗いたい」。早坂さんは、住まいを得て人生の再出発を目指す入居者に接するうち、困窮者に部屋を貸すこの仕事を「天職」と思うようになった。

この冬、早坂さんのものに、4年前に部屋を貸していた50代女性から手紙が届いた。女性は覚醒剤におぼれ、当時は福島県の刑務所を出所したばかり。現在は札幌で服役中で今夏に出所の見通しという。手紙には「今度こそ失敗しないで生きていきたい」と書かれていた。早坂さんは、女性が頼ってきたら再び受け入れるつもりだ。

入居者の中には、家賃を支払わないで姿を消す人もいる。同社の従業員は約40人。「利益を出すのは厳しいが、なんとか赤字にならずにやっている」と早坂さん。入居者のペースに合わせ「伴走」する。